

第25回日本水大賞 応募用紙

(整理番号：)

活動の名称	フリガナ コウガイヲコクフクシタマチ ～セカイニヒロガルキタキュウシュウシノミズニカンスルギジュツ～									
	公害を克服した街～世界に広がる北九州市の水に関する技術～									
記入年月日	活動主体					活動分野				
年 月 日	該当する活動主体に○ (1つまで)					主な活動分野に◎ (1つまで) その他関連する活動分野に○				
	学校 ()	企業 ()	団体 ()	個人 ()	行政 (○)	水防災 ()	水資源 (◎)	水環境 (○)	水文化 ()	復興 ()

活動主体の概要

活動主体の名称 (個人応募の場合は個人名)	フリガナ キタキュウシュウシジョウゲスイドウキョク									
	北九州市上下水道局									
代表者名 (団体の場合)	フリガナ カネオ アキトシ				設立年月日	(創設) 1911年				
	兼尾 明利									
所在地	フリガナ									
	福岡	都・道 府・県 北九州				市・区 郡 小倉北		区・町 村		
主な活動地	福岡県北九州市およびベトナム・カンボジアなどのアジア地域									
組織の概要 (個人の場合は履歴を記入)	北九州市の水道事業は、1911年、国際港都として栄えた旧門司市で始まり、北九州市及び近隣自治体に供給している。下水道事業は、1918年、石炭の積出港として栄えた旧若松市で始まり、現在、市内普及率は99.9%に達している。北九州市上下水道局は、100年を越える事業運営の中で、公害問題や濁水、浸水など数々の困難を乗り越えて発展してきた。そのノウハウと技術を世界の水環境の改善のために活かしている。									

応募活動の概要：

北九州市上下水道局は、1990年より30年以上にわたり、世界各地に専門家を派遣してきた。また、世界中から研修生の受入を行っている。技術協力の主目的は、発展途上国の上下水道関係者に、インフラの構築・運用能力を高めてもらうことである。国際技術協力により、能力向上を行った現地スタッフは、インフラ設備の運転から法制度の構築まで幅広い分野で活躍しており、それぞれの分野の中心人物となっている。カンボジアの首都プノンペンでは、国際技術協力の結果、水道の品質が劇的に向上し、東南アジアでは珍しい「飲める水道水」を達成した。この成功は、世界の水道関係者から「プノンペンの奇跡」と称賛されている。

応募活動のアピールポイント：

- ・アジアを中心として、上下水道分野の海外事業を展開
- ・水道人材育成プロジェクトなどを実施
- ・北九州市独自の高度浄水処理技術（U-BCF：上向流式生物接触ろ過）を展開
- ・海外事業の成果を市民に広く情報発信

これまでの受賞歴：

2012年：外務大臣表彰（技術協力分野、水道事業体として初の受賞）、2017年：第1回ジャパンSDGsアワード（特別賞）、2018年：OECD「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定

※日本水大賞におけるこれまでの応募実績及び受賞歴をご記入ください。

応募実績：第 () 回、 受賞歴：第 () 回 () 賞

「日本水大賞」をどこで知りましたか？（数字に○印を付けて下さい、複数回答可）

1. 新聞広告
2. 官庁内ポスター
3. 日本河川協会ホームページ
4. 水大賞事務局からの案内
5. 国の機関からの誘い
6. 県・市町村からの誘い
7. 教育関係機関
8. 日本河川協会ホームページ以外のインターネットの情報
9. その他 ()

(整理番号:)

活動の概要

目的:

①安心・安全な水をみんなのものに

上水道分野では、1999年に始まったカンボジアへの国際技術協力を始めとして、東南アジアを中心に国際技術協力を展開している。水道インフラの運転指導から法制度整備まで幅広い分野で、人材育成などソフト面での支援を中心に行っている。安心・安全な水を安定して供給できるようになることにより、現地の衛生・経済・教育等の水準の向上に貢献することを目的としている。

②クリーンな水環境を次世代につなぐ

カンボジア・ベトナムでの国際技術協力を初めとして、東南アジアを中心に国際技術協力を展開している。東南アジアでは、下水道インフラの本格的な導入は端緒を切ったところであり、インフラの運転指導だけではなく、一般市民を対象とした環境啓発活動も行っている。クリーンな水環境を保全することにより、衛生水準の向上・防災・健全な都市発展に貢献することを目的としている。

内容:

1. 北九州市上下水道局の海外事業の特徴

北九州市では、アジアを中心とした国・地域を対象として、国際技術協力と海外水ビジネスを柱に上下水道分野の海外事業を展開している。国際技術協力については、世界13カ国へ200人を超える専門家を派遣するとともに、世界156の国と地域から6,500人以上の研修員を受け入れてきた(2021年3月時点)。海外水ビジネスについては、北九州市の特徴として、自治体としての豊富なノウハウと民間企業の高い技術力、そして、国際技術協力で培われた諸外国との厚い信頼関係を築いている。それを礎に、2010年には、海外での水ビジネス展開を目的とした官民連携組織として「北九州市海外水ビジネス推進協議会(KOWBA)」を設立し、約150社に及ぶ企業会員の多様な技術力で、上下水道事業全般にわたる幅広いニーズに対応してきた。この「北九州方式」の海外水ビジネス展開は、現地職員の能力向上、現地の生活環境の改善、北九州市職員の能力向上、地元企業の海外展開・産業振興に貢献している。

2. 水道人材育成プロジェクトなどの実施

カンボジアのプノンペンでの水道人材育成プロジェクト(1999~2006年)では、職員を専門家として派遣し、短期間で水道普及率等が劇的に改善し、「プノンペンの奇跡」と呼ばれ、アジアで数少ない「飲める水道水」を実現した。このプノンペンの成功の後も、北九州市は、カンボジア政府に対して継続的な支援を行い、地方都市の水道事業の改善につなげている。現在、カンボジアの水道行政所管官庁である工業科学技術革新省(通称:MISTI)への技術協力をを行い、国全体として水道行政能力の向上を目指している。また、カンボジアの地方都市での人材育成プロジェクト(2007~2018年)、工業科学技術革新省と協力して「水道行政管理能力向上プロジェクト(2018年~)」を実施している。なお、2022年4月12日、動画「いのちの水をつなごう ~カンボジアの水道~」を一般公開した。

ミャンマーでは、浄水場運転管理能力の向上事業(2013~2016年)として、水道水の消毒が十分でないなどの課題を抱えていたマンダレー市において、塩素生成設備の供与や運転維持管理指導などを実施した。また、同じくマンダレー市において、豊富なノウハウを持つ北九州市が「急速ろ過方式の浄水場における運転維持管理指導事業(2020年~)」を実施している。

3. 北九州市独自の高度浄水処理技術(U-BCF:上向流式生物接触ろ過)を展開

北九州市の姉妹都市であるベトナム・ハイフォン市は、大型河川の下流部に位置しており、近年、急速な経済発展に伴う河川の水質悪化に悩まされている。そこで、環境にやさしい、北九州市独自の高度浄水処理技術「上向流式生物接触ろ過(U-BCF:Upward Biological Contact Filter)」が海を越え、ハイフォン市に展開されている。このベトナムにおけるU-BCF展開戦略は、第1ステップ:JICA草の根技術協力事業(2010年~)、第2ステップ:ハイフォン市の小規模浄水場にU-BCFを導入(2013年~)、第3ステップ:ハイフォン市の主力浄水場に導入(2018年~)、第4ステップ:ベトナム各地の浄水場に導入促進(2020年~)、さらにはベトナムから東南アジア全域への普及を目指している。

4. 海外事業の成果を市民に広く情報発信

2017年から、北九州市上下水道局では、市内の高校生と協力して、海外事業の成果を市民に幅広く発信している。

活動期間 自 1990年 ~ 至 2022年10月(通算 32年 ヶ月)

上記の期間以前から一部の活動を実施していた場合はその期間と内容を下に記入して下さい。

<p>活動の必要性・緊急性： 北九州市は2018年OECD（経済協力開発機構）から「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」にアジア地域で初めて選定され、また、国から「SDGs未来都市」に選定されている。SDGsとは、限りある地球の資源を世界中の人々が公平に利用し、未来の世代に残していくための目標で、2015年、国連の全加盟国（193か国）が合意した。上下水道分野における海外事業は、北九州市のSDGsの代表的な取組の一つとなっており、積極的な事業展開を図ることとしている。 特に、北九州市上下水道局は、100年を越える事業運営の中で、公害問題や濁水、浸水など数々の困難を乗り越えて発展してきた。そのノウハウと技術を世界の水環境の改善のために活かしていくこととしている。</p>		
<p>活動の効果・社会への波及効果： 北九州市には、高度経済成長期に発生した公害を市民・企業・行政が一体となり克服した歴史がある。この過程で培った技術やノウハウをもとに、上下水道分野で、これまで30年以上にわたり国際技術協力を実施し、アジア諸都市を中心に世界の水環境改善に貢献してきたことは、国際的な評価を受けており、本市の売りの一つになっている。このような背景のもと、2010年8月、北九州市における官民連携による海外での水ビジネスに向けた取り組みを積極的に推進することを目的として、北九州市海外水ビジネス推進協議会（KOWBA）が設立された。KOWBAは、全国に先駆けて発足した官民連携組織であり、地元を中心として約150社の民間企業のほか、中央省庁、大学等の関係機関が加入している。企業会員及び関係機関等の相互の情報の交換と共有だけでなく、海外の現地ニーズの把握、官民連携による海外展開の手法や具体的な案件の形成に向けた活動などを行っている。また、企業会員による海外水ビジネスの案件受注に向けて、海外でのセミナー開催や展示会への出展等の活動を積極的に行っている。</p>		
<p>活動を実施する上での留意点、工夫された点、苦勞された点： 今では、長年の国際協力により相手国との間に信頼関係が醸成されているが、当初は全く面識もなく、如何にして信頼を築き上げるかに先人たちの苦勞があった。相手国においては個人的な交流も活かし、少しずつ交友関係を作り、日本に来た研修生には、技術研修だけでなく、休日には北九州市の観光案内をするなど精一杯のもてなしをして、お互いの交流を通して、信頼関係を築いていった。 また、海外経験の少ない市職員が、水道に困っている海外の人々の現状を肌で感じ、現地水道職員の何とか自国の水道を少しでも良くしたいというやる気に接することで、自分たちの技量を現地で役立てたいという思いになり、それが継続した国際貢献となっている。 北九州市では水道があるのが当たり前で、水道がない地域・国では、水道を通すことでとても感謝され、それもまた市職員のモチベーションになっている。</p>		
<p>活動の今後の計画： 1. 国際技術協力 アジアを中心とした国（カンボジア、ベトナム、ミャンマー、インドネシアなど）への職員派遣（4人/年）や研修員受入れ（380人/年）などにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術移転、下水道の計画づくりや維持管理などに関する指導を行って、海外の技術者育成を進め、世界の水環境改善に貢献する。 2. 海外水ビジネスの推進・支援 国際技術協力により緊密な人的ネットワークを築いているカンボジア、ベトナム、インドネシアなどを対象に、「北九州市海外水ビジネス推進協議会（KOWBA）」を軸に、地元企業の水ビジネス展開を積極的に支援する。</p>		
<p>応募推薦者（必要な場合にご記入下さい）</p>		
氏名	吉成 安恵	推薦の言葉：北九州市上下水道局は長年、アジアを中心に上下水道分野で研修員受入れ、草の根技術協力など様々な協力実績を積み重ねてきた。特にカンボジアの首都プノンペンの水道分野においては、プノンペン市側と共に上水道整備に取組み、「プノンペンの奇跡」とも称されるような成果を挙げるなど同市の上水道事業の発展に大きく貢献した。また、北九州市内の高校生への国際協力事業の講座を開催するなど、次世代への広報活動なども積極的に取り組んでいる。
所属	JICA九州 所長	
氏名		推薦の言葉：
所属		